



「勝利に向かって!!」

15P

明日へのひびき
自然環境を求めて

13P

委員会報告
8月 完全給食に

10P

6月会議
4回目ワクワクチンへ

2P

町政を問う
町民の声を活かさせ





答弁する町長と教育長



●学校再編の考え
●災害に強いまちづくり
神崎 安弘 議員

4p



●中学校の部活動
佐藤 清隆 議員

5p



●河床路改修、その後
●コロナ下の町民支援
佐藤 昭光 議員

6p

町民の声



町政を問う を活かせ



6人の議員が質問



●コンビニ交付サービス
●消防設備の維持管理
的場 要 議員

7p



●農業振興策
●自然環境の教育と交流体験
大沼 大名 議員

8p



●伊勢原住宅跡地の活用
●通学路の安全対策
高橋 義則 議員

9p

一般質問は、町政に関して議員が質問を行い、新たな施策の提案や意見を述べ、時には是正を求め、町政をより良い方向へ導くものです。





神崎 安弘 議員

問 開発による災害発生を懸念

答 各種法令・町条例で規制

問 先般、関西電力による風力発電計画がマスコミを通じて発表されました。建設のための道路など開発による土砂災害も懸念されます。考えは。

答 町長 開発と地域との共存など、今後事業者の説明を聞くなかで、町民の意見や条例を基にしっかりと対応していきたいと思っています。

問 国土交通省釜房ダム管理所との話し合い等、情報交換や調整は行っていますか。

答 町長 意見交換を行い、災害等が発生しないよう取り組んでいます。

問 森林により保水力や激流緩和など、河川への流入が調整されています。開発により災害発生が心配されます。考えは。

答 町長 森林法に基づき1鈔を超える伐採は知事の許可、1鈔以下は町長への届け出など、無秩序な開発を規制してい



▲いつでもどこでも災害が…

問 子どもたちを考え議論を

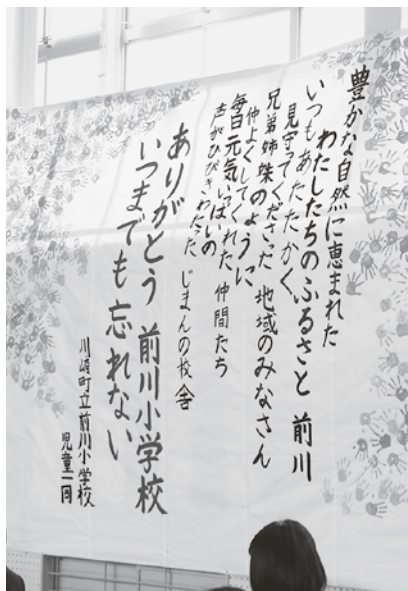
答 出生数の推移を見て考える

平成28年3月会議で「出生数が減少しているなか、現行の学校体制をこのまま継続するのですか」と質問しました。町長は「地域の実情や児童生徒数の推移を見ながら総合的に判断し、慎重に取り組む」と答弁されました。

問 昨年度前川小学校が閉校しました。現状を踏まえ児童生徒のことを思うと、計画を議論すべきと考えますが。

答 町長 令和3年度に生まれた子どもの数は27人でした。今後3年から4年の出生数の推移を見て学校再編・統合の方針を示し意見を募り考えていきます。

答 教育長 小学校では全校児童20人台を目安に考えています。中学校はより切磋琢磨できる環境も加味し、課題を把握していきます。



▲長い歴史に幕

問 今後の部活動指導は

答 段階的に移行を検討

文部科学省では、生徒数の減少や教員の働き方改革などから、来年度以降、休日の部活動を「段階的に地域に移行していく」方向です。改革が急務ですが、学校教育の一環でもあり心配しています。

問 現在の部活動の状況は。

答 教育長 生徒数の減少から、川崎中は部活動数の見直しを、富岡中は個人種目への切り替えを行っています。また、部員不足により野球部とサッカー部が他校との合同チームとして大会に参加しました。

問 地域移行に向けた取り組みと、課題は。

答 教育長 指導にあたる人材確保が最大の課題です。指導者に対する謝礼などの費用負担、事故発生時の責任の所在、継続的な指導にあたる人材の育成なども考えられます。県主催の説明会で最新情報を収集していきます。

問 経験者からの指導は、技術の向上や安全確保といった点から賛成です。しかし、結果を追い求めることに重点をおくと勝利至上主義につながります。行き過ぎた指導なども心配されますが。

答 教育長 これから組織づくりをしていくときに、ひとつの大事な要素として考えていきます。



▲合同チームとして中総体に参加

問 部活動の経験は、責任感や連帯感を育み、社会に出た際にはスポーツを通して、仲間作りにも生かされます。学力と同様に、部活動も地域格差と言われないうち、進めるべきだと思いますが。

答 町長

みんな鍛え成長し、他の町に負けないようにしていきたいと思っています。外部指導者については、不安と期待がありますので、関係者と協力しながら、子どもたちを育てていきたいと考えます。

佐藤 清隆 議員





佐藤 昭光 議員

問 コロナストップ策を

答 4回目接種を加速

問 町内のコロナ感染者の総数は。

答 町長 5月末で207人。流行の収束は見通せません。

問 町内のコロナ感染者の総数は。

答 町長 5月末で207人。流行の収束は見通せません。

問 町内のコロナ感染者の総数は。

答 町長 5月末で207人。流行の収束は見通せません。

問 打撃を受け、生活苦にあえぐ町民への具体的な支援策は。

答 町長

早く平常に近い生活を取り戻すために、引き続きワクチン追加接種の体制確保を行います。また、生活困窮者への新たな給付金支給、可能な限り各種交流事業の再開を図っていきます。



▲4回目接種がスタート

問 危ない河床路、改修は

答 県が実施、年度内完成予定

令和3年6月会議で、松葉森山地区の一級河川・前川を横断する河床路が老朽化して危険な状況にあると質問し、その後、改修に動き出しました。



▲完成後も通行はできない

問 今後の改修計画、完成予定は。

答 町長

町の測量成果をうけ、県は3月に工事測量に着手、6月から10月の出水期を避け、11月着工、来年3月末の完成を目指しています。

問 完成後は従来どおり町の管理ですか。また、人の通行は可能ですか。

答 町長

河川管理者の県が管理します。今回の工事は河床の安定を図る河川構造物として改修するので、今後も通行できません。

問 昨年の6月会議では「補助事業がない」と改修に否定的でしたが、一転した経緯は。

答 農林課長

河床路の今後の在り方を含め県と協議を重ねた結果、このような結論になりました。

問 コンビニ交付調査検討を

答 利用状況を検証しながら

コンビニ交付は、マイナンバーカードを利用する市区町村が発行する住民票の写し、証明書などが全国のコンビニなどで取得できるサービスです。

問 現在、県内では仙台市をはじめとした12の市、柴田町など8つの町、合わせて20の自治体が導入しています。導入経費、ランニングコストなど調査検討を始める時期に来ていると考えますが。

答 町長

まずはマイナンバーカード取得者（現在約4割）を増やしたいと考えます。コンビニ交付の要望などその機運が高まった際には、他の市町の利用状況などを検証しながら、導入の可能性を検討していきたいと思っています。

問 状況調査と撤去の検討も

答 消防団幹部会議で協議

先日火災現場で、地元の方が初期消火に使用した消火栓格納箱のホースが経年劣化のため、折り目から水漏れが発生していました。町内に設置されている消火栓格納箱も同様の状態であると推測されます。

問 有事の際の初期消火には欠かせないものですが、改めて設置場所や状態を調査する必要があると考えます。また、維持管理の観点から撤去も検討する必要があるのでは。

答 町長 格納箱は町内全域で118基設置されています。分団ごとに現状を把握した上で、今後の必要性や管理方法を改めて幹部会議で協議することにしました。

問 消防団のポンプ小屋に設置されているホース乾燥塔も同様です。設置されているロープの対応年数なども含め、こちらもデータ管理、調査する必要がありますと考えますが。

答 町長 設置年数などについては、しっかりデータ管理を行います。また、専門業者の判断・使用年数を基準にして交換する方向性も、併せて検討していきます。



▲町内全域で118基設置



議員 要 場



▲行政サービスをコンビニで



大沼 大名 議員

農家の後継ぎにも支援を

独自の支援策を検討

問 町の基幹産業である農業の担い手不足が深刻化しています。新規就農者には補助制度がありますが、農家の後継ぎには利用できない制度になっています。

答 町長の 農林水産省が実施している※農林業センサスでの主要な販売農家の就業者数は、2010年968人、15年735人、20年513人となっています。10年間で455人が減少、減少率は47%です。

問 当町の農業従事者の推移は。



▲減り続ける農業従事者

問 これまでの新規就農者への支援実績は。

答 町長の 農業次世代人材投資事業は、令和3年度までの10年間で14件の利用があり、補助金額は8087万円となっています。また、町独自の新規就農者営農定着促進事業は平成25年度から12件で1476万円となっています。

問 農家後継ぎにも町として、何らかの支援策を講じる必要あると考えますが。

答 町長の これまでも多くの議員から、農業後継者への支援策が必要ではないかと指摘がありました。改めて、農業に従事している人たちに町独自の支援策を検討し、提案できるように努力したいと考えています。

問

環境教育と交流体験を

答

時間と人の確保が困難

児童生徒の成長を考えたとき、豊かな山と川、海を結びつけた自然環境教育や他地域との交流体験は、大切と考えます。

問 小中学生の成長を考えたとき、予算的な手当も必要と考えますが、町長の考えは。

答 町長の 予算的な手当ができたとしても、交流事業などを行うには、時間と人を確保するのが難しい時代になっています。今やれる活動のなかで体験をすることが、ベストと考えています。

問 県内外の学校との交流を検討する考えは。

答 教育長の 町内の小中学校でも多様な活動を行っていますが、時間的余裕がなく、新たな交流を行うことは難しい状況です。



▲自然はいいね

※農林業センサス…きめ細やかな農林行政を推進するため、農林業や農山村の実態と変化を明らかにするため、5年に1回実施する調査。

問

住宅用地として活用を

答

意見を聞きながら

人口減少という大きな課題に対して、子育て支援や空き家バンクを利用した移住定住促進の成果が表れています。今後、移住者や新築される方の住宅用地として、伊勢原住宅跡地の有効活用について伺います。

問 伊勢原住宅跡地の今後の計画は。

答 町長の 移転者の減少により、伊勢原地区内の町営住宅建築は白紙の状況です。町有地の有効活用を図るため、移住定住の住宅用地なども視野に入れ検討していきたいと思っています。



▲住宅地として検討を

問 多くの人が川崎町に定住してもらうためにも、住宅地として造成を考える必要があるのでは。

答 町長の 町内に人を呼び込むため価格を抑えた住宅地を供給すべきか、また学校用地等にすべきか、さまざまな意見をいただいています。今後皆さんの意見を聞きながら検討していきます。

生徒が安全に横断を

横断歩道を利用

問 現場近くの横断歩道はバス停から離れていることで歩行者は利用せず、道を横断している状況です。生徒の安全対策が必要では。

答 教育長の バス停付近に設けることは、停車バスの直前直後の横断に結びつき危険性もあります。生徒には南側の横断歩道を利用するよう働きかけています。

問 安全に通学できるよう、設置位置を見直しは。

答 町長の 現在のバス停近くに新設は難しいですが、設置位置移動が可能か、関係者と意見交換していきたいと思っています。



▲安全に渡れるように

6月会議

会議は、7日から10日に開きました。
提案された議案は、工事請負契約案1件、財産の取得案1件、条例制定案2件、一般会計補正予算案1件を審議し、原案どおり可決しました。また、人事案1件の選任に同意しました。
ここではその一部を紹介します。



一般会計補正予算

総額 6124万円

4回目ワクチン接種7月から

1198万円



▲第7波に備えて

■補正内容
60歳以上3700人、18歳から59歳で持病のある300人に4回目のコロナワクチンを接種するため、1198万円を補正するものです。7月下旬に接種を開始します。



▲物価高騰対策として

■補正内容
令和4年度に住民税非課税の低所得世帯に10万円、低所得の子育て世帯に養育児童一人につき5万円をそれぞれ支給するため、2474万円を補正するものです。

低所得者等に支援

2474万円

条例制定

川崎町犯罪被害者等支援条例

■提案理由

犯罪被害者等が受けた被害の軽減・回復を図り、安全・安心な地域社会の実現を目指すため、条例を制定するものです。

川崎町議会議員及び川崎町長の選挙における選挙運動の公営に関する条例

■提案理由

公職選挙法の一部改正により、立候補環境の改善を図るため、条例を制定するものです。

人事案件

固定資産評価審査委員(新任)



すがや ひろあき
菅谷 大見 さん
(本荒町)

任期 令和4年7月28日から
令和7年7月27日まで

条例改正

川崎町税条例等の一部を改正する条例
川崎町国民健康保険税条例の一部を改正する条例



会議は24日に開きました。
提案された議案は、補正予算案1件を慎重に審議し、原案どおり可決しました。また、条例改正の専決処分等の報告を受けました。ここではその一部を紹介します。

5月会議

带状疱疹予防接種費用助成事業 370万円

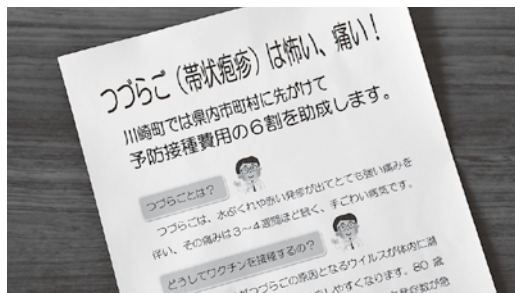
■補正内容

増加傾向の带状疱疹発症を予防し、町民の苦痛や負担の軽減を図るため、65歳以上330人に接種費用の6割を助成するものです。

災害復旧費

■補正内容

3月に発生した福島県沖地震により被災した各施設の復旧費用を計上するものです。



質疑

当初予算でなく

佐藤(昭)議員

問 補正とした理由は

議会要望と現状確認で

保健福祉課長

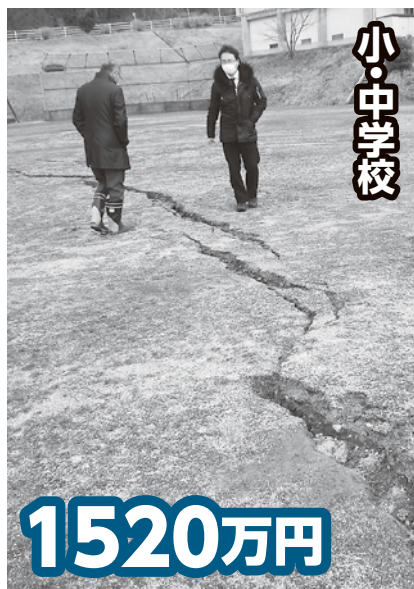
答 3月会議の一般質問を踏まえ、病院と協議しました。提案理由のとおりの増加傾向にあり、早急に対応するためです。



▲路肩が崩落

林道三方倉線

750万円



▲亀裂が入った富岡中グラウンド

役場本庁舎他

1952万円

▲至る所で被害が

総額 4631万円

小・中学校

総務民生常任委員会

調査日 5月18日

消費生活相談の現状について 特集・保存版で啓発を

【調査結果概要】

電話勧誘・訪問販売などによる契約トラブル、悪質商法・製品事故などに対する相談に毎週木曜日、専任の相談員が応じています。

相談件数は、令和元年度20件、2年度15件、3年度20件です。主な相談内容は、架空請求、送り付け詐欺、証拠が残りにくいSNSによる契約です。弁護士にアドバイスを仰



▲イラスト入りでわかりやすい

【委員会意見】

広報紙で「チヨコエもと」とそば実ちゃんの消費生活相談」を掲載し注意喚起を行っています。これまで掲載してきたものを特集し、保存版として配布するなど注意喚起、啓発方法を検討してください。成年年齢引き下げや

指定管理施設の現状について ニーズに合わせた誘客を

【調査結果概要】

みやぎ蔵王 セントメリースキー場 スキー場は、平成2年12月にオープンし、平成20年9月から「株式会社ゆらいず」と指定管理協定を締結して

います。営業形態は、平成30年度に夏季営業（7月中旬から11月中旬、土日・祝日）を開始し、冬季営業（12月下旬から3月下旬）と合わせて年間約120日となっています。

川崎町交流促進センター「るぼの森」 センターは、平成8年11月にオープンし、平成29年4月から「株式会社さかたや」と締結しています。営業は、ほぼ無休、受付業務は通年となっています。



▲人気のキャンプ場

【委員会意見】

スキー場は、辺地計画により施設の更新を進めています。降雪があれば集客は図れますが、利用客の分析やニーズに合わせた誘客方法など、管理者と協議し経営の安定に努めてください。るぼの森は、自然環境を活用したオート

産業建設教育常任委員会

調査日 5月19日

学校給食の現状は 8月 完全給食に移行

【調査結果概要】

平成2年度に学校給食共同調理場の供用開始以来、主食提供の見直しを行いながら、現在では米飯持参を週3回パン食週2回としてい

ます。また、平成28年度から子育て支援の一環として、給食費負担軽減措置を実施してきました。

8月から完全給食に移行するため、委託炊飯による米飯提供を実施する予定です。



▲8月からの給食が楽しみ

【委員会意見】

学校給食は適切な栄養の摂取により、子どもたちの健康の保持推進のため重要な役割を果たしています。8月から完全給食が実施されますが、食材単価上昇が続くなか、栄養バランスの取れた豊かな食事を提供することに

町道の整備計画と今後 日々の点検を強化

【調査結果概要】

町道の整備は平成25年度以降、道路新設改良事業が4路線で3億180万円。道路維持補修事業が6路線で1億8780万円。橋梁補修事業が10路線で

2億6720万円。総額7億5680万円を投じて生活道路の整備を進めてきました。今後は、これまでと同様に補助事業や起債事業を活用しながら、大規模な道路維持補修工事として支倉台団地

他2路線、橋梁補修事業は昭和40年代に整備された町道小松倉線蛙岩橋他17箇所の補修工事が予定されています。



▲補修が待たれる蛙岩橋

【委員会意見】

引き続き補助事業や起債事業を活用しながら、計画的に事業を進めてください。また、道路の陥没等により車が破損する事案がありました。日々の点検を強化するとともに、行政区長や郵便局などからの連絡網等の整備も検討してください。



▲湧水が移住の決め手



▲家族で田舎暮らしを楽しんでいます

甲子園球場のある西宮市出身。東日本震災後、石巻にボランティアで来県し奥様と出会い結婚。その後、仙台で整体師として働く。里山が好きだったことや、野菜作りに興味を持ち3年前に移住。企業で働きながら整体を続けている和田正吾さんを紹介します。

環境が重要

Q 移住の決め手は。
A 健康に暮らすことに貢献したい想いで、整体をしてみました。心や身体に栄養や環境が重要と感じ、オーガニック野菜を育てたいと思いました。家族に良い環境で過ごしてもらったため移住しました。

修繕費の増を

Q 空き家バンクを利用し移住されましたが、感想は。
A 制度を利用したためすごく助かりました。今後空き家の登録が増えてほしいです。また、修繕費用補助は一律ではなく、家の痛み具合を加味した補助額増額があればと思います。

家族と同じ

Q 田舎暮らしに不安はありませんか。
A 地元の人に「家族と同じだから何でも声をかけて」と優しく言ってもらい、助けられています。地区の草刈りなど積極的に参加しています。また、移住仲間とも情報共有し、楽しく過ごしています。

整体で元気に

Q これから川崎でやりたいことは。
A 整体を通してみんなに元気になつてもらいたいのです。もっと交流を深め、川崎のことを教えてもらいたいです。また、自然豊かな田舎暮らしの良さを楽しく発信していきたいと思っています。

ずっと元気で

Q 町や議会に望むことは。
A 高齢化が進み医療の負担が大きくなっています。医療に頼りすぎない健康推進に力を入れていただきたいです。子どもからお年寄りまで、みんながずっと元気に過ごせる町になつてほしいです。



整体をしながら農業も
しょうご
和田正吾さん(本砂金)

仙南・亘理地方議会常任委員長研修会 7/12・13



▲3年ぶりに開催

蔵王町を会場に、9つの町の正副議長及び常任委員会委員長の55名が出席のもと開催されました。分科会に分かれた研修と全体研修が2日間にわたり行われ、当町議会からは5名の議員が参加しました。

ここでは報告書の一部を紹介します。

チャレンジ精神を！

大沼大名議員
議会広聴・広報分科会では、当町議会の取り組みを報告し、質疑応答を行いました。特に他町の広報編集の状況を知ること、当町の広報紙の分析ができたことが大いに勉強になりました。各町とも町民目線の読みやすい広報編集を行っており、常にチャレンジ精神を持ち続け、編集することが大切だと感じました。

研修レポート 議会の活性化・改革の推進を

町村議会議員講座 7/14

仙台市を会場に、県内町村議員を対象として開催されました。「質問質疑のあり方・やり方」をテーマに講演が行われ、当町議会からは5名の議員が参加しました。

ここでは報告書の一部を紹介します。



「なぜ？なぜ？」の繰り返し

沼田長一議員

質問は問題点の解決策だけを求めるのではなく、なぜ問題が起きるか。その問題は本当に問題か。「なぜ？なぜ？」を繰り返して深掘りすることで、本質が見えてきます。この本質の対策を引き出すように質問をしないと。今後「なぜ？なぜ？」を意識し質問するように心がけが必要と感じました。

問題点を深掘り

佐藤清隆議員

前向きで効率的かつ効果的な答弁を引き出せるかが非常に重要であること。その方法の一つとして、問題点を深掘りするために議員間討議が必要であることを話されていました。事実に基づき討議することが大事であり、質問質疑の質を上げていくためにも意識を高め、取り組みなければいけないと強く感じました。



▲今後の活動に参考

お知らせ

議会の傍聴について

コロナウイルス感染防止対策として、感染拡大の影響が収束し、安全が確認されるまでの間は、インターネット中継及び役場1階町民ホールでの視聴をお願いします。

詳しくは、町議会のホームページをご覧ください。ご理解とご協力をお願いします。

※次回の会議は9月6日(火)～15日(木)、一般質問は9月7日(水)・8日(木)午前10時、再開の予定です。

詳しくは、議会事務局まで **TEL (0224)84-2301**

掲載写真を募集します

本紙の「町の風景」(裏表紙)に掲載する写真を町民の方より募集します。写真をご提供いただける方は、議会事務局までご連絡をお願いします。



※ご提供いただいた写真が必ず掲載となるものではありません。ご理解のうえでご提供願います。

※写真のタイトルは議会広聴・広報委員会で決定いたします。

詳しくは、議会事務局まで
TEL (0224)84-2301

町の風景



水しぶきに感激

撮影場所：滝ノ沢大滝(笹谷)

撮影：議会広聴・広報委員会

表紙の説明「勝利に向かって!!」

柴田郡中総体にて

撮影 広報モニター 佐々木 和人さん

議会映像配信

議会の様子が
ご覧いただけます。



発行：川崎町議会
編集：議会広聴・広報委員会

〒989-1592
宮城県柴田郡川崎町大字前川字裏丁175番地1
TEL (0224) 84-2301・FAX 84-6789
E-mail: kawasaki2@town.kawasaki.miyagi.jp

印刷：株式会社津田印刷